2025年、「観光先進国」へ飛躍の年に

日本温泉協会会長　多田計介
温泉文化を世界に発信

皆さま、新年明けましておめでとうございます。

2025年の年頭にあたり謹んでごあいさつを申し上げます。皆さまには平素より当協会へのご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

昨年は元旦から日本列島をゆるがす能登半島地震、9月には豪雨災害に見舞われ、被災されました方々におかれましては心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。

私は、昨年6月に宮城県仙台市秋保温泉で開催された会員総会で会長に選出されました。日ごろより当協会の活動に対し多大なるご尽力とご厚情を賜りまして厚く御礼申し上げます。

日本温泉協会は1929年創立以来、温泉資源の保護と温泉の活用、温泉知識の普及に努めてまいりました。全国的温泉関係団体としては最古の団体であり、4年後の2029年には創立100周年を迎えます。これまで全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会（全旅連）会長職を6年務めさせていただきました経験を生かし、ささやかではございますが、当協会の事業活動にまい進してまいりたいと存じます。

日本温泉協会は事業活動目標の柱として次の3点を掲げています。

一つ目は「温泉資源の保護」です。昨今の国策としての再生可能エネルギー事業は地熱発電開発を拡大する方向にあります。当協会としては「地熱開発に秩序を求め」、五つの提言の順守を求めてまいります。当協会内に地熱対策特別委員会を設置し、温泉事業者と地熱事業者、国や自治体との協議の場を設け、ただやみくもに反対するのではなく「共生」を模索したいと考えます。

二つ目は「温泉資源の活用」です。日本は世界有数の温泉大国です。日本各地に湧出する温泉は太古以来日本人の暮らしの中で欠かせないものです。入浴や飲泉による「湯治」だけでなく、温泉街独特の建築や街並み、さまざまな食文化が海外のSPAとは違う固有の生活文化を作り出してきました。日本温泉協会では、鹿児島県指宿温泉で開催された2019年会員総会で「日本の温泉文化をユネスコ無形文化遺産に登録すること」を目標とする決議を全会一致で採択しました。コロナ禍もあり、活動中断を余儀なくされておりましたが、全国温泉振興議員連盟（会長＝中曽根弘文参議院議員）、「温泉文化」ユネスコ無形文化遺産登録推進議員連盟の国会議員の方々のご協力と群馬県を事務局県とする「温泉文化」ユネスコ無形文化遺産登録を応援する知事の会」（会長＝平井伸治鳥取県知事）のご努力により、政府の骨太の方針に「温泉」の文字が記載されました。今後は早期登録を目指し、温泉関係3団体（全旅連、日本旅館協会、日本温泉協会）が中心となって設立した「温泉文化」ユネスコ無形文化遺産全国推進協議会（https://www.onsen-culture.org）の拡充を図ってまいります。当協会としては学術的側面から温泉文化の定義、わざ、担い手を検討したいと考えます。この活動がさまざまな災害で疲弊した温泉地の活性化と温泉地で働く方々の誇りを取り戻すきっかけとなればと念じております。

三つ目は「温泉知識の普及」です。当協会では温泉研究者の権威が集い学術部委員会を設置しています。学者の方が中心となり「季刊温泉」を年4回発行し研究内容を発表しています。10言語対応温泉入浴エチケットポスターを発行してマナー普及に努め、温泉を多角的に研究する温泉検定も継続して実施します。

インバウンド客の増加は今後対応の課題となります。当協会にも多数の海外団体から交流促進の依頼が来ております。日本の温泉が世界の注目を集めているといえそうです。次年度からは温泉の国際交流も当協会の事業として取り組みます。

「裸同士で一つの湯船に浸かり静かに瞑想する」日本の温泉文化は海外には見られない固有の温泉文化と思います。ぜひとも日本のみならず世界の方々にこの素晴らしい文化をご理解いただき、ユネスコ登録に向けご協力を賜ればと存じます。

皆さま方のますますのご健康とご繁栄を祈念いたします。

日本政府観光局（JNTO）理事長　蒲生篤実
地方誘客やMICE誘致に注力

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年はインバウンド観光が急速に回復し、訪日外客数は過去最速で3千万人を超え、訪日外国人旅行消費額も過去最高を更新するなど、訪日外客数・消費額ともに非常に好調な年でした。日本政府観光局（JNTO）では、昨年3月に世界で26番目となる海外事務所をストックホルムに開設し、北欧地域からの誘客を強化するとともに、観光立国推進基本計画に定められている三つの柱「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」の実現に向け、観光庁とともに策定した「訪日マーケティング戦略」に基づき、戦略的なプロモーションに取り組んでまいりました。

具体的には、ビジット・ジャパン重点市場ごとに選定した各ターゲットの興味関心に応じた市場別のプロモーションを実施するとともに、消費額拡大に資する高付加価値旅行や、地方誘客促進につながるアドベンチャートラベルなどを推進してきました。特にアドベンチャートラベルでは、旅行会社、メディアのファムトリップや商談会を通じて商品のさらなる磨き上げを目的としたプログラム「Adventure Week」を、JNTOとして初めて沖縄県で開催し、日本のアドベンチャートラベルデスティネーションとしての認知度向上や商品造成を働きかけました。Adventure Weekについては、今年は東北で開催を予定しています。

2025年度には観光立国推進基本計画の最終年度を迎えますが、いまだ訪日外国人旅行者の地方部宿泊数は政府目標に到達しておりません。それぞれの地域でそこでしか味わえない体験の発信など、引き続ききめ細かいプロモーションを地域と連携して戦略的に実施するとともに、いよいよ開催が本年4月に迫った大阪・関西万博もきっかけとしながら、まだ知られていないエリアにおける魅力的なコンテンツの発掘や情報発信等を行い、積極的に地方誘客に取り組んでまいる所存です。

また、MICEにおいては、昨年5月にICCA（国際会議協会）が発表した国際会議統計では、2023年の開催件数が過去最高の世界7位となり、2030年までに世界5位とする政府目標に近づいています。引き続き国内関係者の皆さまとの連携を強化し、MICEの誘致・開催の促進にも注力いたします。

地域の魅力を日本の魅力に、そして「日本の魅力を、日本のチカラに。」するべく、持続的な観光立国の実現に向けて、各種取り組みを進めてまいりますので、引き続きご支援を賜りたく存じます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

日本観光振興協会会長　菰田正信
「量」から「質」重視の観光へ

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は、訪日外国人旅行者数が過去最高の3500万人を超え、日本各地の観光地は活況を呈しました。一方で、人材不足や、一部地域では混雑が常態化し、地域住民の日常生活への影響が生じるなど、課題にも直面しています。

観光産業が持続可能な形で成長を遂げていくには、DXの推進により生産性や収益力を高め、その分人の手でしか行えないサービスやホスピタリティの向上を行い、量から質を重視した観光へ転換することが大変重要です。

当協会では昨年、地域のマーケティングデータ戦略支援ツールである「日本観光振興デジタルプラットフォーム」を構築し、広く提供を開始しました。当協会が保有する全国約12万件の観光情報と30の統計・ビッグ・調査データを掲載しており、常に最新のデータを簡単に取得し、地域・企業の効率的かつ効果的なマーケティング活動の実現に活用いただけます。

また、北米や欧州のDMOが集まる会議体にも積極的に参加し、海外の最新トレンドに関する情報を収集し、得られた知見を持ち帰り国内に広く発信するなど、持続可能な観光地づくりに貢献できるよう努めています。

さて、今年はいよいよ「大阪・関西万博」が4月に開幕します。世界中から多くの観光客が集まり、関西のみならず日本全体が、世界的潮流をとらえた観光地として脚光を浴びる絶好の機会になります。また、5月には日本と台湾の観光関係のトップが一堂に会する「日台観光サミット」を鳥取県で開催するほか、9月には、中部圏で初めての開催となる「ツーリズムEXPOジャパン」が、愛知県国際展示場にて開催されます。

このような機会に加えて、全国組織である利点を生かした事業などを通じ、当協会はあらゆるステークホルダーとともに、持続可能な観光地域づくりを軸とし、観光産業の発展を目指します。これにより、観光がわが国の経済発展に貢献し、諸課題解決の役割を担えるよう取り組み、国内外に力強く発信することで、観光の価値向上にまい進する一年にしてまいりたいと思いますので、引き続きご支援とご協力を賜りたく、お願いを申し上げます。

最後に、皆さまの今年一年のご多幸をご祈念申し上げ、年頭のごあいさつとさせていただきます。

全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会会長　井上善博
公的役割を果たすべく、組織を強化

2025年の新春を迎え、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は、心穏やかなお正月を迎える中、能登半島地震が発生しました。改めて、お亡くなりになられた方に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆さまにお見舞い申し上げます。全旅連も発災直後から、被災地支援について政治、行政の関係者とも膝詰めで協議を行い、その結果、一定の必要な支援を実現させることができました。

しかしながら、いまだ能登半島の復旧・復興は道半ばであり、本年も地域に寄り添い、必要な支援を行っていきたいと考えております。

一方で昨年は、訪日外国人旅行者数が過去最高となるなど、宿泊観光業界はコロナ禍から抜け出し新たな産業発展を目指すフェーズに入りました。今後は宿泊観光産業を国の基幹産業にし、宿を核とした地方創生を実現していき、そして、全旅連はその中心とならなければいけません。

昨今全旅連は、業界が抱える、生産性・収益性の向上、人手不足問題への対応、頻発する自然災害への対応といった課題の解決に向け、観光庁や厚生労働省をはじめとする関係省庁とも政策的な連携を深め、実際に国の事業も受託し成果もあげています。また、全旅連は、地域づくりへの積極的な貢献、災害時における被災者の受け入れ、といった公的役割をより一層果たしていくことも期待されています。

そのためにも、今年は全旅連について、各種政策を推進する部会の再編成、本部と各都道府県組合事務局の連携強化など、組織体制の見直しやガバナンスの強化などに着手する予定です。

その上で、宿文化の普及啓発、「温泉文化」のユネスコ無形文化遺産登録に向けた取り組みの推進▽宿泊客からお預かりした寄付金を自然保護、歴史・文化の保全などに充て、地域社会の持続可能性を高める新たな制度の導入・運用▽観光庁が創設した「宿泊業の高付加価値化のための経営ガイドライン・登録制度」や「心のバリアフリー認定制度」の推進▽デジタルデータフォーマットの標準化等によるDX化の推進▽宿泊業技能試験センターの取り組みの支援や、観光庁推奨の特定技能プラットフォームの利用の推進等による外国人労働者の受け入れの推進▽災害時における行政、各都道府県組合、宿泊施設との迅速な情報共有を可能とする災害時情報連携システムの整備―等を推進したいと考えております。

この他、政・官・民が一丸となり「観光立国・日本」を実現させるためには、宿泊観光業界から国会議員を誕生させるとともに、観光庁を「庁」から「省」に発展させることが必要です。そうした機運の醸成も引き続き図ってまいります。

最後に、私は「日本の宿には文化がある、今を生きるわれわれはその文化を守り、発展させ、そして次世代に継承していく義務がある」と考えています。そのためにも「一日一日、一つ一つの宿が、お客さまを最高のおもてなしでお迎えし、世界に唯一の宿文化を存分に体験いただき、お客さまに宿泊した宿を愛し、そしてその地域を愛してもらう」という当たり前のことをやっていくことが重要です。その先に、宿泊観光産業の明るい未来があるのではないでしょうか。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

国際観光施設協会会長　鈴木裕
日本の五感＋六感に注目集まる

あけましておめでとうございます。

昨年は大谷翔平さんの活躍で日本に世界の注目が集まりましたが、それだけでなく身近に海外からの人材、お金も流入してきているように感じます。世界が分断されつつあり混迷の度を深めている中で、世界の目が日本に向いて来ている気配を感じるのです。世界は消去法により今まで見過ごしていた東アジアにおける日本の価値を再認識した感が有ります。コロナ明けの西欧・アジア地区からのインバウンドの爆発的増加がその流れを加速しています。すでに知られているようでも、実は未知の国であった日本の魅力は世界に拡散し観光ビジネスのチャンスを捉えるべく投資家、ホテルオペレーターが雪崩を打って日本市場に参入してきています。観光のみならず日本企業価値の見直しがあることは言うまでもありません。日本の不動産事業では海外からの人、金の流入によりオフィス、マンションに続き、富裕層対応のホテルを中心とするホスピタリティ施設も脚光を浴びてきています。人口爆発の危機を危惧されていた世界も、経済発展の進展に伴いフロンティアを失い、人口も減少に転ずると言われており、この傾向は先進国では日本を先頭にすでに始まっています。

そうした近未来、ある程度まで経済的に安定した社会では必要以上のものを求める刺激的世界は縮小し、美しく健全に生きるウェルビーイングな世界が求められるようになってきました。そうした流れの中で、日本文化に育まれた精神、身体の健康的生活に注目が集まってきているように思います。順調に伸びている世界のウェルネスビジネスも従来のコンセプトの枠を超えて飛躍するべく、日本の伝統的ウェルネスを研究し始めていて日本の五感＋第六感について注目が集まる気配を感じます。すなわち①味覚（お茶、発酵食品）②視覚（四季の自然、一服の絵、一輪の花）③聴覚（風、水、虫の音）④臭覚（御香、檜）⑤触覚（なぐり、なめし、さめはだ）⑥第六感（森林浴、坐禅、温浴、茶事）。

正月気分でそんなことをつらつら考えていると、日本のウェルネスが世界に穏やかさを取り戻すきっかけとなることも夢では無いように思えてきました。

5つ星の宿
凛として
愛らしく
奥日田温泉 うめひびき
Okuhita Onsen UMEHIBIKI
大分県日田市大山町西大山 4587 番地
☎ 0973 - 52 - 3700
https://www.umehibiki.jp/

湯めぐり海百景
鳥羽シーサイドホテル
〒517-0021　三重県鳥羽市安楽島町 1084
予約専用　TEL0599-25-5151（9：00 ～ 19：00）
https://www.tobaseasidehotel.co.jp/

株式会社古湧園は松山・道後の旅を応援します。
株式会社 古湧園　〒790-0842 愛媛県松山市道後湯之町 20 番 23 号
TEL:089-945-5911　FAX:089-932-3011

人と環境に優しいZEB（レディランク）ホテル
ホテル古湧園　遥
松山市道後鷺谷町 1 の 1
☎ 089-945-5911
https://www.kowakuen.com

瀬戸内と愛媛の選りすぐりの特産品が並ぶ
十五万石　MASARU　道後湯之町店
松山市道後湯之町 20 番 23 号
☎ 089-946-1844
https://dogo.co.jp

道後温泉の引き湯の足湯でリラックス
足湯カフェ坊っちゃん
松山市道後湯之町 20-14
☎ 089-943-4833

柑橘製品の専門店
えひめ果実倶楽部
みかんの木
松山市道後湯之町 13-15
☎ 089-941-6037

地元の物をはじめ全国各地から銘品を集めました
十五万石　YUI
松山三越店
松山市一番町 3-1-1
☎ 089-934-5890

スタジオジブリのキャラクターグッズの販売店
どんぐり共和国
松山店
松山市道後湯之町 20-20
☎ 089-935-6660

愛媛の地酒・地ビール・地焼酎と瀬戸内珍味を集めた地酒専門店
TANUKI NOREN
松山市道後湯之町 20-20
☎ 089-945-5920